



ちょっとそこまで～お散歩日和(名言編)～

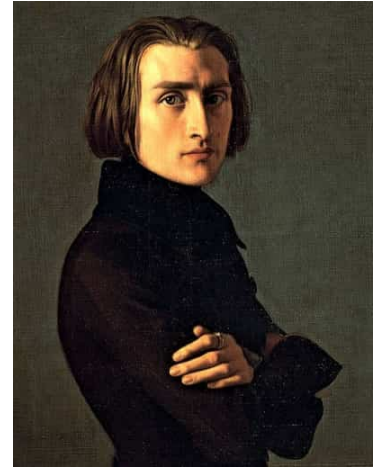


私をまねてはいけない… リスト



私を真似てはいけない。
私のやり方で私は成功できたが、
あなたはきっと失敗するだろう。
これは私だからできたとしか言い様がないのだ。…… リスト

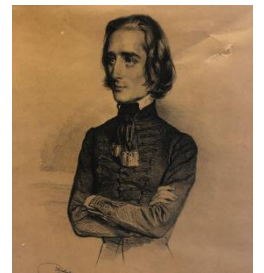
リストは、指が6本あるのではないかと噂されたほど超絶的な技巧をもつピアニストとして有名で、「ピアノの魔術師」と呼ばれていました。どんな曲でも初見で弾きこなしたそうですが、ショパンの「12の練習曲 作品10」だけは弾きこなせなかったというこぼれ話は、本当かどうかはともかく、少し人間味を感じてほっとするエピソードです。この中には、ショパンの代表作の一つでもある「別れの曲」が含まれています。



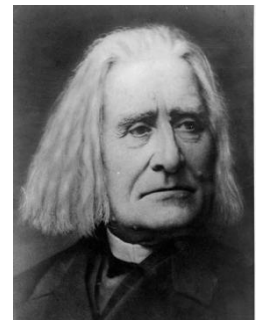
この2人は大の仲良しでありライバル関係にあったことは有名ですが、数年前に、Eテレの「ららら♪クラシック」で、「ショパンとリスト ライバル物語」と題して放映されたことがありました。概要を知りたい方は、次のサイトが分かりやすいと思います。

<https://tvmatome.net/archives/11824>

その中で、ショパンとリストの手の大きさに触れたコーナーがあって、「クラシックピアノはド～ミまで届く前提で譜面が書かれている。」という話の後、ショパンはド～ミぐらい、リストはド～ソぐらいまで届いたというエピソードが紹介されていました。ただただ羨ましい限りです。



ここで少し脱線しますが、音楽室に飾られていた写真は、若き日のイケメンなリストの肖像画でしょうか。それとも、晩年の渋さ全開のリストでしょうか。しばしば思うのですが、歴史上の人物の肖像画というのはいつの時代を描いたものかによって大きく印象が変わってきます。そういう意味では、若くして亡くなった人はラッキーかもしれません。永遠の若さを手に入れたことになるからです。



いずれにしても彼はピアノ・プレイヤー史上最高の天才とも言われる人物で、いわゆる成功者です。私たちは、とかく成功者の成功例を参考にします。しかし、成功者とは得てして、リストのように才能に恵まれた人物でもあります。そんな才能のある人間の成功事例は本当に参考になるのでしょうか？

そうでなくても、他人の成功事例というものは、そのまま参考にするには難しいものです。自分の過去の成功事例すら当てにならない場合も多いのですから。

リストの言うように、自分には自分だけの方法があるのであって、そうでないとうまくいかないものです。それを探さずに人真似ばかりしているのは、所詮借り物でしかありません。いや、そもそもそのやり方を採るのが自分という人間の性質を明らかにする作業なのであり、人生の醍醐味だと思います。

しかし、一方、他人の間違った行為でさえも参考にすべきであるという意味で「他山の石」という諺もあります。これは儒教の経典の一つである「詩経」の「鷄鳴」という詩にあるもので、「他山の石、以て玉を攻(おさ)むべし」という言葉がもとになっています。「他の山のなんの変哲もない石ころでさえ、砥石として使えば宝石を磨くことができる」という意味です。

しかし、それはモノマネをするということではありません。成功例を見たら、その表面の具体的な部分を真似するのではなく、その背後にある成功に繋がった核心をつかむことです。つかんだ核心は参考になる場合もならない場合もあるでしょう。その取捨選択の具合ブレンド具合が自分だけのオリジナルなものとするのです。

ところで、リストの代表曲は？と聞かれて何を挙げるでしょうか。一般的には「愛の夢」が一番有名だと思いますが、「ハンガリー狂詩曲」はどうでしょうか。

この曲からの連想で、アニメ「トムとジェリー」が思い浮かびます。このアニメは、ギャグ・アニメの典型ですが、その中に、極めて異色のアニメがあります。「ピアノ・コンサート」です。この作品で、トムはリストの「ハンガリー狂詩曲」を演奏しています。この曲の演奏を巡って例によって2人のドタバタ劇が繰り広げられる内容ですが、当時のアニメ制作者の技量の高さをまざまざと思い知らされます。効果音を含めて、全てが原曲にぴったりフィットしているのです。しかも1946年の制作ですから二重に圧倒されます。敗戦でぼろぼろになっていた当時の日本と比較し彼我の差は絶望的ですからあります。



興味ある方は、次のURLで動画をご覧になれます。必見の価値あります。

- ・「トムとジェリー コンサート狂騒劇」 <https://www.youtube.com/watch?v=KkwTEIed7v8>

個人的には、この作品はディズニーの「ファンタジア」に対抗するために作られたのではないかと推察しますが、両者ともに、ただただ神業としか言いようがありません。その「ファンタジア」ですが、次のURLでご覧になれます。

- ・「ファンタジア (Fantasia) Part1」 <https://www.youtube.com/watch?v=9xp1m5AQMx4>
- ・「ファンタジア (Fantasia) Part2」 <https://www.youtube.com/watch?v=rwZUh48wBXU>

さすがに2時間を超える作品を見るゆとりはないという方は、せめて「魔法使いの弟子」だけでもご覧いただきたいと思います。わずか10分弱の作品です。

- ・「The Sorcerer`s Apprentice (魔法使いの弟子)」 <https://www.youtube.com/watch?v=b9d0-Yl-Oec>



この映画には特別な思い出があります。その昔、この団地が立ち上がった頃、子育て世代が大勢入居してきたこともあって、子供会を主催したことがありました。わずか3年ほどで、大病を患ったことがきっかけで活動をやめました。その時、16ミリフィルムを借りてきてミニ映画会をよくやっていました。

どなたか覚えていらっしゃる方もいるかも知れないので触れますが、現在の順天堂大学病院が建つ前は、石神井東中学校がありました。しかし、笹目通りを通すために、現在の地に移設することになります。そして、病院が誘致されるまではずっとその校舎建物は残っていて、練馬区教職員研修センターとして活用されていました。その中に、視聴覚センターと呼ばれる一室があり、たくさんの16mmフィルムの一般貸し出しをしていたのです。少しずつビデオに移行していく時代でしたから、16mmフィルムを借りる人はほとんど誰もいなくて借りたい放題でしたので、大変に美味しい思いをさせていただきました。

話が随分脇に逸れましたが、その子供会の映画会で、この「魔法使いの弟子」を上映したことがあります。何度観ても本当によくできていて、質の高さは目を見張るものがあります。これが1940年の作品だとはとも思えません。「白雪姫(1937年)」「ピノキオ(1940年)」に続く3作目の作品ということになります。この後、「ダンボ(1941年)」「バンビ(1942年)」と続きます。

冒頭の、リストの名言からも大きく逸脱してしまいました。毎度のことですが、ご容赦下さい。(終)